

評価から評定への総括方法

各教科の学習評価においては、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総合的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。

各単元において、3つの観点（知識技能・思考判断表現・主体的に学習に取り組む態度）ごとの評価（A・B・C）を行い、それを累積したのから学期末ならびに学年末に「観点別学習状況の評価」を出す。これをもとに、教科ごとの「評定」（3・2・1）に総括する。

1 観点別学習状況

・学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価する。

・観点別に、

A「十分満足できる」状況と判断されるもの
B「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C「努力を要する」状況と判断されるもの

のように区別して評価を記入する。

2 評定（第3学年以上）

・学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総合的に評価する。

・「観点別学習状況」の評価を総括した数値を各教科の評定として示す。

・その際、

3「十分満足できる」状況と判断されるもの
2「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
1「努力を要する」状況と判断されるもの

のように区別して評価を記入する。

3 評定への総括方法

・3つの観点の評価が全てAの場合は、⇒ 評定は3となる（2、1にはならない）

・3つの観点の評価が全てBの場合は ⇒ 評定は2となる（3、1にはならない）

・3つの観点の評価が全てCの場合は ⇒ 評定は1となる（3、2にはならない）

・3つの観点の評価が同一ではない場合は、A・B・Cを数値で表したものに基づいて適切に総括し、その結果を評定として表す。

評価	AAA	AAB	AAC	ABB	ABC	ACC	BBB	BBC	BCC	CCC	
評定	3			2				1 (C)			